

OZU DISCOVERY CORNER

©IR(国際交流員) マシュー・サイバート Wew!

VOL.05 Artificial Flowers of Plum

国際交流員マシュー・サイバートと大津町の人々との交流を通して、いろいろな町の魅力を発見していくコーナーです！今月は町の伝統工芸「梅の造花」の魅力をレポート！伝統を守り続ける肥後大津民芸造花保存会の皆さんに突撃取材しました。

～肥後大津民芸造花保存会の皆さん～

町指定無形民俗文化財「梅の造花」を作っています。枝材には梅の古木、花びらなどには通草紙を使用し、花びらの切り出しから行っています。その見事な作りは本物と見間違えるほど。



1通草紙という和紙を1枚1枚のりで貼り合わせて花の形に2どこに花を取り付けるとより本物らしいかを教わります3繊細な作業に集中力が高まります

ひとこと質問コーナー

梅の造花にメッセージなどを込めることはありますか？

もともと梅の造花は、病気の子どもの健康を願ってお地蔵さまにお供えるために作られたと言われています。今も昔も子どもを思う気持ちが込められていると思います。

肥後大津民芸造花保存会 会長 新開ツキ子さん

とても細かい作業で集中力が必要でしたが、皆さんの指導のおかげでなんとか完成しました。今回作ったのは梅の造花をアレンジしたお正月飾り。やっぱり梅の造花は素晴らしいです！皆さんもぜひやってみてください！



学校での取り組みなどをご紹介 毎月14日は大津町教育の日

●問い合わせ 役場学校教育課 学務係 ☎096(293)3349

各学校の取り組みを紹介 マイクロレポート



大津東小

「親子ふれあいフェスタ」で、親子で炊き出し、餅つきりや三門松づくりをしました



護川小

地域探検などでお世話になった豊岡ミズエさんの「百歳をお祝いする会」を開きました



室小

tomomiさん(シンガソングライター)が夢を諦めないことの大切さを話してくれました



大津南小

森林への理解とふれあいのため、5年生が高尾野公園で植樹や木工教室を行いました

輝く人権

連載「人権シリーズ」

●問い合わせ

役場人権推進課 人権推進係
☎096(293)7920

■人権をもっと身近に

1948年国際連合総会で世界人権宣言が発令され、世界中で人権のさまざまなイベントが行われるようになり、町では毎年12月に「人権を考える女と男のつどい」を開催しています。今回は昨年12月1日に約300人が参加して町生涯学習センターで開催しました。

■人権講演会

小国町社会福祉協議会サポートセンター 悠愛の室原正孝さんより「今日までそして明日から」と題して講演がありました。



壇上に立つ室原正孝さん

家族との関わりについて、驚き、喜びや悲しみなどを共感していく積み重ねが信頼関係を築く事になり、いろいろな人権問題を解消するにはその信頼関係が大事だと話されました。

参加者からは「人の思いに気づく大切さを感じた」、「日頃の会話の中でも人権問題に気づかされる事を実感した」などの感想がありました。

■人権作文発表

町内小・中学校の代表児童・生徒による人権作文の発表がありました。これは各学校で取り組んだ人権学習や町の集会などを通して、自分自身に見えてきたこと、友だちや家族と関わる中で体験したことなど、代表7人がその思いを発表しました。参加者からは「子どもたちの学校での取り組みや努力している姿がよくわかった」、「子どもならではの感性は素晴らしい、思いが十分伝わった」などの感想がありました。

■男女共同参画フォトコンテスト表彰

「家族みんなの家事・育児」をテーマに昨年7月に募集し、応募作品の中から町男女共同参画審議会による審査の結果、8点の入賞作品が決まり、当日は最優秀賞の大木咲和さん(室)、優秀賞の阿部千波さん(室)、金田隆さん(大津)の表彰を行いました。



表彰を受ける大木咲和さん

きらめく男女

連載「人権シリーズ企画⑥」

●問い合わせ

役場人権推進課 男女共同参画推進係
☎096(293)7920



大津町男女共同参画審議会 委員 村越美智子さん

「良き時代になったなあ」と感じる今日この頃です。例えば、買い物に出掛けると、夫婦で仲良く品物を相談している様子や、若い人だと子どもさんをお父さんが抱っこして遊ばせているほほ笑ましい姿をよく目にします。

平成2年、婦人対策係の新設に伴い「婦人問題懇話会」が発足、平成4年に「女性行政懇話会」、平成13年に現在の前身である「男女共同参画懇話会」と名称を変更しました。大津町は当時、どこよりも早かったので町外からもたくさんの方の視察を受けていたと聞いています。私はその頃から委員として参加していましたが、何から始めたらいいのかよくわからず、男女共同参画の啓発ポスターを作って配布したり、地域を回って寸劇をしたり、皆さんの意見を聞いては持ち帰り委員同士で話

し合い、また次のステップへ、と少しずつ活動を続けました。

当時は、今と違いほとんど男性中心の社会で女性の参画は難しく、男性の決めたことに女性は後からついていく世の中でした。家庭のこと、職場のこと、地域のこと、いろいろ話し合いました。「男女共同参画」という言葉がうれしくて、できることから始めようとあまり深く考えずに先走ったこともあったかもしれませんが、「この考え方が必要だ」と感じてもらえる時代になるよう努力しようと思えました。今日では、委員の人たちが素敵な意見を出し合って「より良き暮らし」を眼目に会議が進んでいることに、感心するばかりです。

私の思う男女共同参画社会とは、共に生き、育ち、働き、思いやりの中で楽しく朗らかな日々を過ごすことです。町の豊かな自然の中に生かされて、安心安全でみんなに優しいまちづくりを協力しながら輝いて今日も頑張ります。

第1回大津町男女共同参画川柳コンテスト

入選
「どっちでんよか 料理つくりは ひまな方」
北岡 眞理子さん

